



名古屋大学大学院文学研究科付属

人類文化遺産テクスト学研究センター 公開セミナー



● 畝部 俊也 [名古屋大学文学研究科]

『仏頂尊勝陀羅尼』 関連の新資料について



● 佐々木 大樹 [大正大学非常勤講師・智山伝法院常勤講師]

法隆寺貝葉「仏頂尊勝陀羅尼」をめぐって

—特に松浦史料博物館所蔵『大倭國法隆寺所蔵貝多羅梵經』に注目して—

日時 ● 2014年7月17日(木) 17:00～19:00

会場 ● 名古屋大学文学部棟 大会議室

《事前予約・参加費不要》

※終了後に懇親会を開催いたしますのでご参加ください。



主催：名古屋大学文学研究科付属人類文化遺産テクスト学研究センター

共催：科学研究費補助金基盤 (S)

「宗教テクスト遺産の探査と総合的研究—人文学アーカイヴス・ネットワークの構想」(研究代表者：阿部泰郎)

問い合わせ先：阿部泰郎 【tel】 052-789-2288 【mail】 nagoya.cht.archives@gmail.com



## 『仏頂尊勝陀羅尼』関連の新資料について

---

畝部 俊也 [名古屋大学文学研究科准教授]

数多の仏典の中で最も広く信仰を集め、多く関連する文物が残っているものは何か。有名な大乘経典である『法華経』でも『般若心経』でもなく、意外なことに、『仏頂尊勝陀羅尼』という小テキストであろう。今回の発表では、近年行っているタイに伝わるパーリ語写本研究の成果として、この『仏頂尊勝陀羅尼』の因縁譚をパーリ語で伝える Unhissa-vijaya について報告する。

また、パーリ語写本研究の一環として、日本に古くから遺される、タイより伝わったと思われる貝葉写本の調査も行っているが、去る 2014 年 3 月に平戸松浦資料館で行った調査研究のなかで、同館に伝わるパーリ語写本が、鎖国前にアユタヤからもたらされたと思われる貝葉写本の精巧なレプリカであることを発見した。このパーリ語写本とともに、法隆寺に伝わる有名な梵文貝葉写本（『仏頂尊勝陀羅尼』を含む）のレプリカも見したが、これらのレプリカの作成には、松浦静山及び木村兼葭堂といった著名な人物も関わっていると思われ、大変興味深い。この点についてもあわせて報告する。

### 法隆寺貝葉「仏頂尊勝陀羅尼」をめぐって

—特に松浦史料博物館所蔵『大倭國法隆寺所蔵貝多羅梵経』に注目して—

---

佐々木 大樹 [大正大学非常勤講師・智山伝法院常勤講師]

「仏頂尊勝陀羅尼」(uṣṇīṣa-vijaya-dhāraṇī) は、中央～東アジアにおいて広く流通した密教典籍であり、日本でも盛んに信仰された。本発表では、日本に伝来された仏頂尊勝陀羅尼の資料のうち、法隆寺所蔵「梵本心経并尊勝陀羅尼」(法隆寺貝葉：重要文化財) について取り上げる。

最初に仏頂尊勝陀羅尼の概論として、経典や陀羅尼の内容や相互関係について触れる。その上で法隆寺貝葉に注目し、その模写である浄厳(1639～1702)『貝葉訳経記』、宗淵(1785～1859)『阿叉羅帳』、さらに松浦史料博物館所蔵『大倭國法隆寺所蔵貝多羅梵経』と比較し、テキストの相互関係、伝承の系譜等を探る。